



消化器外科

企画：坂井義治

(日本内視鏡外科学会理事長，大阪赤十字病院院長)

消化器外科領域の手術アプローチ法は，約100年の開腹手術の歴史を経て腹腔鏡手術が台頭し，約20年の腹腔鏡手術の普及を経てロボット支援手術へと進化し，わずか10年のロボット支援手術の経験にもかかわらずdigital surgeryの序章へと進んでいる。

さまざまな手術支援ロボットが市場に登場し，ロボットを用いた遠隔手術支援のガイドラインも公表された。さらにAI技術は画像解析・診断ばかりでなく，手術navigationへの応用も加速している。脈管や神経ばかりでなく剥離層までもが術野に投影されるようになり，いずれAIと対話しながら手術を進めることが可能になると思われる。

本章では消化器領域の臓器ごとに，内視鏡手術の現状と，ロボットを中心とした消化器外科手術の将来展望を紹介していただく。